

# イギリス留学 ロンドン4月

初の欧州でまず驚いたのは、異国情緒溢れる町並みの数々だった。いっどこにいても、自分がまるで映画の世界の中にいるかのような高揚感を抱いた。

また、ロンドンは思っていたよりもはるかに人種の垣根で、多文化共生の様子が見て取れた。

全体的に自由でのびのびとした人々の気風が感じられ、息が詰まらず過ごしやすさを感じた。曜日や時間帯問わずリラックスできる環境が整っていた。

また、多くの日本食やアニメといった文化の浸透が感じられ、少し胸が躍った。



ロンドンの歴史的な町並み。  
タクシーや二階建てバスも見どころ



左から二番目の黄色い看板のある  
建物が語学学校。築100年以上らしい

## 語学学校

ルーツや年齢、スタイルの異なる様々な先生と会話を重ねた。

口語と文語の結びつきが弱く、発話に困難を感じていたが、次第に自分の言いたいことを口語に変換するまでのラグが少なくなっていくのを感じた。

英語には日本語ほどの文法上顕著な敬語が少ないこともあり、様々な人と気兼ねなくフラットに話すことができ、深い心の交流となった。

絶えず生徒の入れ替わりがあり、一期一会を強く感じた。様々な境遇や国籍の知人ができ刺激的だった。

時には卒業を祝うパーティもあり海外ならではの和気あいあいとした楽しみ方ができた。



先生とともに学生の卒業パーティ

## トトロ、ロンドンへ

「となりのトトロ」のミュージカル ロンドン公演を観劇する機会があった。1年以上のロングラン公演にもかかわらず、ホールは満席だった。

劇は日本語と英語の混合台本で、日本ならではの表現や挨拶、歌詞が大切にされているのを感じた。

多くのキャストが日本人でなくとも、キャスト及びスタッフ一同が、日本人の感性や世界を心からリスペクトしているのが伝わり感動した。

また、セリフのほとんどが英語であることで良い勉強になった。





店頭に並ぶミルク。

左上、赤=スキムミルク、右上、青=ヤギミルク、  
右上、緑=ラクトースフリー牛乳

# 食の観点から ロンドンを見る

日本ではホルスタイン牛乳をほぼ全ての飲用乳として利用しているが、こちらではジャージー牛乳も飲用としてかなりメジャーだった。高い乳脂肪率から日本でもスイーツ等に活用されているように、重厚感のあるクリーミーな味わいが感じられた。それに伴い脂肪分の抜かれたスキムミルクも主要な牛乳だった。

また、ヤギのミルクも身近に置かれており、人生で初めて体験した。牛乳と比べてあっさりした味わいで、羊肉とも似た風味のクセが感じられた。

石川県ではラクトース不耐症の人のためのA2ミルクが有名だが、ここでは多くのラクトースフリー牛乳が扱われていた。

## 観光農場にて



ずっと羊と勘違いしていたアンゴラヤギの親子

多くの主要な農家はスコットランドに存在するが、ロンドンにも小規模ながら観光農場があった。到着した瞬間からニワトリの鳴き声が聞こえた。様々な家畜が同じのどかな農場に住んでいる様子は「ひつじのショーン」を想起させるようだった。

ヒツジ、ヤギ、ウマ、ニワトリ、七面鳥、あひる、カモ、ロバ、アルパカ、その他小動物というように実に様々なレパートリーの動物を楽しめた。

同じヒツジやヤギの中でもいくつもの種類があり、日本ではなかなか見られないような種類も確認できて面白かった。

多くの動物が人馴れしており、小さな子どもでも安心して触れ合えると感じた。

親子の哺乳シーンなどとても自然な様子が観察でき、またえさやり体験も実施されていることから、親子で訪れると楽しみながらも動物及び畜産のことをより身近に感じ学べる良い施設だと思った。

人懐っこいピグミーゴート。  
とてもチャームिंगだった。

ヒツジの哺乳シーン。大学で学習したことが裏付けされた気分が高揚した。

犬かと思えた  
アングロノビアン種のヤギ

## 卵の黄身

写真では伝わりづらいが、少し薄く感じた黄身の色。

朝食で卵を食べる機会がよくあったが、普段日本で食べるものより黄身が黄色く感じられた。日本では卵を生で食べる習慣があることから、普段からいかに黄身をオレンジ色に濃くする努力がなされているかを体感した。

また、卵に限らず、欧州ではオーガニック志向が強く広まりつつあることを各所で感じた。